

Gohorin News

だごぼぼはん だより




寺地番 787-0816
 常入 東老田 787-0816
 富山 山 市 東 老 田 787 番 地
 電話 (076) 436-0816
 FAX (076) 436-2766
 携帯 090-3764-3983
 発行責任：青井和成

これからのお寺

長らく常入寺で教室を開かれていたそろばん教室が先月いっぱい東老田教室を終了されました。私が仕事を務める前からではなかったかと記憶していますが、不確かですが…。皆さんのお子さんやお孫さんも通われていたお宅も少なくはないと思います。お家賃をいただけていたという点でも助かっていたのですが、それよりお寺に足を運ぶ機会が少なかったであろう方々と縁を結んでくださったという役割も担っていたださっていったようにも思います。法事などの場で「私小学生の時そろばん教室に行っていたんですよ」「あなたのお寺はそろ

ばん教室を開かれていたお寺ですか？」などとおっしゃってくださいました方が数人おられたわけですから。地下鉄サリン事件が起きて先月で20年経ったそうなのですが、その時オーム真理教の信者の方の言葉として「お寺は単なる風景でしかありません」というものを紹介していただいたことがあります。今までは常入寺はほとんど風景だったかもしれないませんが、でも「そろばんのお寺」としては何とか認知されていたことなのでしょう。そういう意味では首の皮一枚で単なる風景ではなかったかもしれない。もしかするとこれからはお寺って何するところ？ 私には全く縁のないところと言うことになっていって

しまうかもしれません。これからの展開をしっかりと持たさずにつかかれば皆さんが維持できないかもしれない。な

念仏申されてきた先輩は浄土真宗のお寺は「聞法の道場」だと教えてくださった。お説教を聞く場所。お坊さんが特殊な修行をするところではなく、誰もが集う場所なのでしよう。お念仏にであう場所なのでしよう。お寺を多くの人が集える場所なり、念仏を届けていただいている者同士互いを認め合いながら語り合える場としてこれからは意識してお寺の場を創っていかなくてはと思わざるを得ない春のひとつ

です。

いつたら単なる風景としてでなくなるのでしょうか。お寺って何するところなのですか？ お坊さんは何をしてくれる人かという問いには答えられてもお寺はどういうところと答えることができない人は少ないです。特にいわゆる修行をしない浄土真宗のお寺で

念仏申されてきた先輩は浄土真宗のお寺は「聞法の道場」だと教えてくださった。お説教を聞く場所。お坊さんが特殊な修行をするところではなく、誰もが集う場所なのでしよう。お念仏にであう場所なのでしよう。お寺を多くの人が集える場所なり、念仏を届けていただいている者同士互いを認め合いながら語り合える場としてこれからは意識してお寺の場を創っていかなくてはと思わざるを得ない春のひとつ

ご命日の集い

ご命日の集いとは私たちの宗祖、親鸞聖人のご命日である二十八日に開催する仏事です。常入寺では三月から九月の間の毎月二十八日に勤めています。何をやっているのかといえば、実は難しいことは何もありません。宗祖親鸞聖人がお造りになられた「正信偈」というたをみんなで節を付けて読んで、後はお茶を飲んでいただけです。それだけです。皆さんも月に一度お寺に集い茶話会しませんか？ どうぞお気楽に顔をお見せ下されれば幸いです。お待ちいたしております。

毎月二十八日午後二時～三時ぐらいまで
とにがく一回来てくだはれまっ！ まっつつちやあ

椅子を貸し出します

常入寺には参詣用にお座敷用のいすが40脚以上あります。ご法事の時など足の悪い方々のためにこの椅子をお貸しもさせていただいています。(但し、お寺の行事がない時) ぜひご利用ください。また皿、コップ、大鍋などもお貸しできます。



貸出料は無料です



ありがた 有難し

優曇華^{うどんげ}という名前の花があります。この花は、三千年に一度だけ咲く花として、お経のなかに出てきます。三千年に一度だけ咲くのですから、まぼろしのように^{はかな}儚い一生を過ごす人間が、この花にめぐりあうのは、めったにないことです。「有難し」とは、「めったにない」「非常にまれな」「貴重な」という意味で、「優曇華がはじめて開くようなもの」などとたとえられます。

では、人間にとって「めったにないこと」とはなんでしょうか。

人身受け難し 今すでに受く
 仏法聞き難し 今すでに聞く

三帰依文^{さんきえもん}はこの二句が始まりますが、この二句がそれを教えています。「人身受け難し（人として生まれることは、めったにないことである）」、「仏法聞き難し（お念仏の教えにお会いし、うなづくことは、めったにないことである）」とあるように、それは「人として生まれること」、「お念仏の教えにうなづくこと」です。

これらのことは、普段のせわしない生活において、なかなか意識に上らないかもしれません。本日のお参りを機縁にして、あらためて思いをはせたいものです。

～さまざまなご縁によって、人として生まれ、お念仏の教えにお会いすることができた。めったにないことが今、事実として起こっている～。

そう実感する人のところに、優曇華の花は咲き誇ります…。



本日はようこそ大谷祖廟へご参拝くださいました。

真宗大谷派（東本願寺）大谷祖廟

〒605-0071 京都市東山区円山町 477 Tel.075-561-0777

HP <http://www.higashihonganji.or.jp>

京都にある大谷祖廟（おおたにそびょう）では、親鸞聖人の御廟（ごびょう）に供奉された^{仏花}を用いて、仏さまの言葉
 を身近に感じていただけるよう花文字を作り、その言葉の解説文を配布しています。今回は、『ありがたう』の花文字に
 合わせて『有難（ありがた）し』という言葉の解説文を配布しています。
 ※花文字伝道は、年4回（春秋彼岸・8月の盂蘭盆会・年末年始の期間）希望される参拝の方にお持ち帰りいただけるようにしています。